

## 第 13 回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医研修ワークショップを終えて

熊本大学医学部附属病院副病院長（教育・研修担当）

総合臨床研修センター長

山下康行

第 13 回の熊本大学医学部附属病院群 臨床研修指導医研修ワークショップが、8 月 23 日（金）、24 日（土）の 2 日間、熊本大学医学部附属病院、総合臨床研修センターで開催されました。今回は、教授や協力型病院の病院長を含む経験豊富な学内外の指導医 43 名の参加を得て、無事盛会のうち終了することができました。準備段階からご協力頂きました関係各位の皆さまに心よりお礼申し上げます。

本ワークショップは、初期臨床研修制度開始以降、各診療科をローテートしながら回ってくる研修医に対し、日々臨床現場で指導に当たられる先生方が、どのような指導をするのが最も教育効果があり望ましいのか？どのように指導することで研修医がモチベーションを高めてよき医師を志すことに繋がるのか？を学ぶ極めて有意義なワークショップであったと思います。

今回は新たに谷原病院長にディレクターをお勤め頂き、山口大学医学部附属病院総合診療部の松井邦彦教授にチーフタスクフォースとしてワークショップ全体の構成にご助言いただきました。また、本年は特別講演の講師として、一般社団法人高知医療再生機構 理事長 倉本 秋 先生に『地域で学ぶ、地方で学ぶ—地域のキャリア形成支援策』の演題で特別講演をいただきました。

本年のプログラムでは、例年のように、参加者相互の他己紹介によるアイスブレイクの後、「社会が求める医師の臨床能力」に関する KJ 法による作業に始まり、「学習目標」、「学習方略」、「指導医の在り方」、そして「教育評価」へと展開し、最後に「臨床研修の問題点への対応」について討議がなされました。さらに、「熊大病院群の現状と新しいプログラム」を紹介し、参加者の皆さんに更なる改善策を提案して頂きました。指導医の在り方に関するロールプレイでは、各グループから熱演が披露され、適切な指導法とは？、求められる理想的な指導者とは？について十分議論することができ、指導方法に関して考えるいい機会になったと思います。

医師は、卒前、卒後教育を通じて、教育論、具体的な教育法・指導法について、系統的に学ぶ機会は少なく、これまでは臨床現場において、先輩から指導された方法を参考に自分なりの経験、知識、工夫を加えて、後輩を指導することが一般的であったように思います。卒後臨床研修制度の中で、教育病院である大学病院のみならず、市中病院でも忙しい臨床の傍ら、研修医に適切な指導を行うためには、指導医ワークショップを受講し、教育に関する理論と実践を学んでおくことは大変重要であると考えます。今回の指導医ワークショップは、参加された指導医の皆様にとって、医学・医療教育の基本から学ぶ良い機会であったと思います。

本ワークショップを通じて学んだことを、診療現場で是非とも実践され、医学の発展と地域医療の進歩に貢献する新しい時代の魅力と情熱溢れる臨床医を育成することに役立てていただければ幸いです。

---

---

**第13回熊本大学医学部附属病院群臨床  
研修指導医研修ワークショップ報告書**

2013年11月

発行：熊本大学医学部附属病院総合臨床研修センター

〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号

Tel. 096-373-5689 (総務・人事ユニット卒後教育担当)

Tel. 096-373-7146 (総合臨床研修センター)

---

---